

ヘルス

東北 南北

民話研究家の酒井重美さん(松江市大正町)が、山陰両県の伝承者が民話を語り、わらべ歌を歌う様子を収録した電子書籍「島根・鳥取の民話とわらべ歌」を発売した。明治、大正、昭和を生きた古老が、山陰の原風景を連想させるといつつとした語り口と穏やかな歌声で、込められた教訓や思いを伝えている。

酒井さんは中学教諭だった1960年に民話などの収集を始め、島根大教

山陰の民話 電子書籍化

松江の研究者・酒井さん発売

わらべ歌も収録 教訓、思い伝える



電子書籍「島根・鳥取の民話とわらべ歌」を紹介する酒井重美さん

授や出雲かんべの里館長をう。歴任した。電子書籍は、2010年刊行の「さんいん話「金の犬」は、島根県の民話とわらべ歌」(ハーベスト出版)が収録する計36の民話と、わらべ歌を音声と文章で紹介。音声は講演会などで披露することはないが、形としてまとめられたのは今回が初めてという。調子で正座しながら語ったのは今回が初めてという。調子で正座しながら語ったのは今回が初めてという。調子で正座しながら語ったのは今回が初めてという。

転移性脊髄圧迫 注意を

脊椎や、その中を通る脊髄にがんが転移すると、脚がまひして歩けなくなる可能性がある。「転移性脊髄圧迫」といって、放射線照射などで速やかに治療する必要がある。だが、がん患者にはほとんど知られておらず、がん治療が専門の医師の間でも緊急の対応が必要であることの認知度はいまひとつ、という状況だ。

がん転移で両脚まひ

急速に進行
乳がんや前立腺がん、肺がんは、骨への転移が多いとされる。転移が起りやすい場所の一つが脊椎だ。転移性脊髄圧迫は、転移したがんが大きくなり脊髄を圧迫している状態のこと。進行すると、圧迫を受けた部分の脊髄より下の神経機能が失われ、両脚のまひなど回復が不可能な状態に陥る。

放射線治療

「朝は脚のしびれだけだったのに、その日の午後には脚が動かなくなる人もいます」と、広島市立広島市民病院放射線治療科の松浦寛司主任部長は語り、迅速な診断と治療の必要性を訴える。

「朝は脚のしびれだけだったのに、その日の午後には脚が動かなくなる人もいます」と、広島市立広島市民病院放射線治療科の松浦寛司主任部長は語り、迅速な診断と治療の必要性を訴える。

システム構築へ

広島市民病院で2010年10月、15年9月に、転移性脊髄圧迫で放射線治療を受けた44人を松浦さんが調べたところ、歩ける状態まで治療した

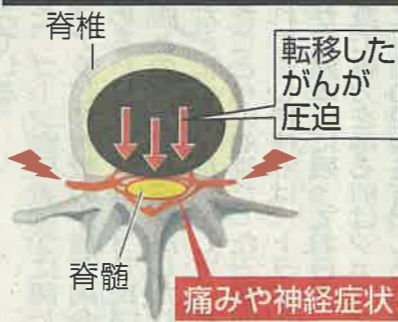


広島市民病院の掲示板に張られた啓発用ポスターと松浦寛司さん(松浦さん提供)

医師にも 迅速な診断と治療必要

「朝は脚のしびれだけだったのに、その日の午後には脚が動かなくなる人もいます」と、広島市立広島市民病院放射線治療科の松浦寛司主任部長は語り、迅速な診断と治療の必要性を訴える。

転移性脊髄圧迫のメカニズム



病になってわかったこと

こんにちは、漫画家の細川昭々です。連載の最初に「健康って何だろう?」と考えてみます。

健康が「病気や苦痛がないこと」だとすると、健康な人にとっては、それは、当たり前、何も無い状態です。何も無いのだから、とくに意識することも無いかもしれません。

「病気になるまで初めてわかる健康のありがたみ」とかいう話もよく聞きます。わが家の場合もそうでした。

うちのツレ(夫)は40歳目前にして、うつ病になったのですが、病気になるまでは「もう自分の人生はオシマイだ」と言っていました。

少し良くなっても、細か



イラスト・細川昭々



1000号目指す